



(前編の続き)

創業以来の伝統を守りつつ、今の時代にふさわしい会社の在り方を模索し続ける代表取締役の中村和明。安全意識の向上と並ぶもう一つの主要なテーマが、「質の高い人材の確保」だ。その課題をクリアするべく、どのような施策に取り組んでいるのか。未来に向けて掲げるビジョンと、社員たちへの思いに迫った。

大切なのは、前向きに挑戦する気持ち

中村電設株式会社は、ほかの一般的な電気業者が手がけていないシーケンス回路の改造や鉄工所顔負けの溶接作業などにも取り組んでいる。そのため、個々の腕前に多少の差はあるものの、業界全体として見たときの技術力はかなり高いレベル

に達していると確信している。

限られた作業だけを繰り返す方が楽かもしれないが、負荷がかからなければ本人の成長は見込めず、能力の幅も広がらない。現状に満足しては、ますます変化が激しくなる時代の波に乗るのは難しいだろうと考えている。誰も新しいことを始めるときは、何らかの抵抗を感じるもの。それでも、まずは最初の一步を踏み出すことが大切だ。そのうえで経験を積み重ねていきながら、自己のスキルを高めていってほしいと願っている。

やりがいを持って働ける環境を

高い技術力に裏付けされた会社の強みは、取引先との信頼関係の強化、そして安定した受注の実現につながっている。社員たちの努力と成果に報

いるため、会社としてできることは何なのかを、中村はつねに考えているという。

「業界平均より高い給与水準を維持できたほか、2023年度前期は3回のボーナスを支給できました。物価高騰による経費の増加など、さまざまな面で出費はありましたが、価格交渉における発注者側の理解もあり、しっかりと利益を確保できたからこそ、実現できたのだと思います」。

今後も、モチベーションにつながる待遇改善や幅広い技術習得のバックアップなどを通して、働きがいのある会社づくりを推し進めていくつもりだ。

会社の基盤を支えるのは「人」

社員のワークライフバランスを考えていくうえでコアとなるのが、福利厚生制度の充実である。経営者として、社員がお金に困るような事態だけは避けなければならない。社員のなかには5人の子どもを抱えて働く者もいる。以前は家族手当を子どもの数に応じて減額調整していたが、そういったものをすべて取り払い、人数にかかわらず一人当たりいくらと定めた。さらに、近年の激しい物価高が家計に与えるダメージを和らげるため、当面の間、インフレ手当を給与にプラスして支給するようにした。そのときどきの世の中の情



勢に合わせて、福利厚生の中身をブラッシュアップしていければと考えている。

会社が5年後、10年後とお客様のニーズに応え続けていくためには、質と量の両面における人材の強化が欠かせない。会社を支えるマンパワーをいかに確保していくのか。業界や業種を問わず、抱える課題は共通している。仕事はたくさんあるのに、人手が足りないためになかなか追いつかないといった状況も改善しなければならない。戦力となる人材の採用を増やしつつ、事業のさらなる拡大を図っていきたいという。

各人が率先して動ける集団を目指す

中村が今、社員たちに届けたいメッセージは「主体性を持って、さまざまなチャレンジをしてほしい。現状維持はむしろ退化である」ということ。指示待ち人間に大きな成長は望めない。たとえ失敗したとしても、自分の頭で考えて修正しようとする姿勢が重要なのだ。痛い目にあって、はじめて気づくこともたくさんある。ただし、同じミスを何度も繰り返すのはいけない。中村が時折、「自分の時給を考えて仕事をしなさい」と呼びかけるのも、作業のやり直しのコストがどれほどのものかを肌感覚で理解できれば、時間への意識と仕事の質は自ずと高まっていくと考えているからだ。

また、社員たちには仕事とプライベートを問わず、いろいろな人たちと出会って見識を深めてほしいと思っている。

「物事のとらえ方や考え方は人それぞれ。共感できる部分もあれば、できないところもあるでしょう。そうした違いを知れば、視野が大きく広がるはずです」。

さまざまな人たちとのコミュニケーションを通して人としての幅を広げ、豊かな人生を送ってほしいと願う中村。社員たちへの深く温かい気持ちを胸に、これからも力強く中村電設の未来を切り拓いていく。

若手成長記

今回は堀内さんに、入社からこれまでの仕事内容についてお話を伺いました。電気工事の仕事は未経験だったという堀内さん。入社5年目となり、どのようなことに成長を感じているのでしょうか。今後のビジョンと共に紹介します。

入社当時のお写真



ほりうち いたる
堀内 瑛太さん

入社
2018年3月1日



現在の業務内容

工場内に常駐し、各種電気工事を行っています。

主な作業は、工場内電気機器の据え付け、配管、配線。コンセントを付けたり、照明を取り付けたりしています。

成長したと感じるところ

業務経験や資格取得……。その全てが成長！

私は電気工事の経験がなく、まったくの素人という状態で入社しました。仕事については、上司や先輩方にイチから丁寧に教えてもらいました。現場では覚えることが非常に多く、まだ一つひとつの業務を学んでいる状況です。しかし、最近は1人で作業を担当することも増えて、少しずつ前に進んでいることに喜びを感じています。また、電気機器の配線作業には「電気工事士」という資格が必要です。私はそれを入社2年目で取得しました。資格を取得したことで、1年目ではできなかった結線業務をこなせるようになったので、そこもひとつの成長だと思っています。

印象的なエピソード

安全意識を高めていく！

現場によっては、高所やクレーンなど不安定な足場の上で作業をすることも。そのような現場では、下に人が通らないように、そして物が落ちないように、安全意識をより一層高める必要があります。例えば、高いところには不必要なものを持っていかない。腰に装備している道具が抜け落ちないように、しっかりと装着するなど。事故を絶対に起こさないという空気は緊張感がありますし、気合が入ります。

現在の課題と今後の目標

正確性とスピードを高めていく！

職人の仕事ということもあり、5年間働いていてもわからないことが山ほどあります。周りは熟練の職人さんばかりなので、その姿からはいつも多くのことを勉強させてもらっています。たとえ同じ作業をしていても、私と他の職人さんでは、スピードも正確さもまったく異なります。これからは、安全第一を念頭に置きながら、一つひとつの作業の正確性とスピードを高めていく必要があると思っています。

家族へのありがとう！

入社して約15年、作業長として日々の仕事に勤しむ金尾さん。奥様とお子様の3人家族という金尾さんに、ご家族への日ごろの感謝の気持ちを伺いました。

From

作業長
かな おとも み
金尾 知美さん

妻へ「ありがとう」を感じる瞬間

家庭のことを全面的にフォローしてくれてありがとう！

家事も子育てもすべて行ってくれている妻に、「ありがとう」の気持ちを伝えたい！

妻はしっかりした性格のため、色々な用意も含め何から何までやってくれます。本来なら家事などの役割分担をしなければいけないところですが、私が洗いのものをしようとする妻は「台所に入らなくて良いよ」と言ってくれるため、結果的に妻が1人で家の一切を担ってくれています。私は朝から仕事に出てしまい、一日の大半は家にいません。仕事に集中できる環境を作ってもらえて、本当にありがたいと思っています。



金尾家はこんな家族

妻と息子の3人家族です。妻はとにかく朗らかで、家の中がとても明るくなっています。長男が幼稚園生で、まだ小さいこともあり話題は子どものことが中心で、毎日盛り上がります。どのような一日を過ごしたのかを話しながら過ごす家族とのひとときは、自分にとって大切な時間。妻の明るさにいつも救われています。



妻へのメッセージ

Message...

ゆっくりくつろげる空間を作ってくれてありがとう。出会ってから築き上げた信頼関係があるからこそ、私は日々安心して仕事に打ち込むことができます。いつも明るく支えてくれて感謝しています。

社内システム活用法！

社内にある便利なシステム。わかっていても、なかなか活用できていない方も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、掲示物を管理するシステムについてご紹介します！ぜひ今後の業務にお役立てください。

掲示物の管理編

掲示物管理の登録方法

①TOPより「掲示物管理」を押下します。

赤枠の「新規登録」ボタン、作成したい掲示物を選択し、緑枠の「新規登録」ボタンの順でクリックします。



②必要情報を入力してください。
※掲示物によって入力内容が変わります。

▼情報（仮説配線表示の場合）

- 得意先名
- 担当者名
- 電話番号
- 自社担当者名
- 電話番号
- 所轄部署名
- 所轄担当者名
- 期間
- 作業/内容



③画面左上の「プレビュー」ボタンを押すとプレビューが表示されます。確認し、問題なければ、緑枠の「印刷」ボタンをクリックして印刷！

TOP画面に掲示終了1週間前の掲示物が表示されます。

